

# 地方自治体における情報システム（生活保護） の標準仕様書改定に向けた調査研究等一式

第1回生活保護システム等標準化検討会  
(2024年7月10日) 事務局資料



Build Beyond As One.

## 第1回生活保護システム等標準化検討会 次第

### <日時・場所>

令和6年7月10日（水） 10:00～12:00 オンライン開催（Zoom）

### <議題>

I. 開会

II. 議事

1. 出席者紹介
2. 令和5年度の検討の振り返り
3. 令和6年度検討会実施概要の説明

III. 閉会

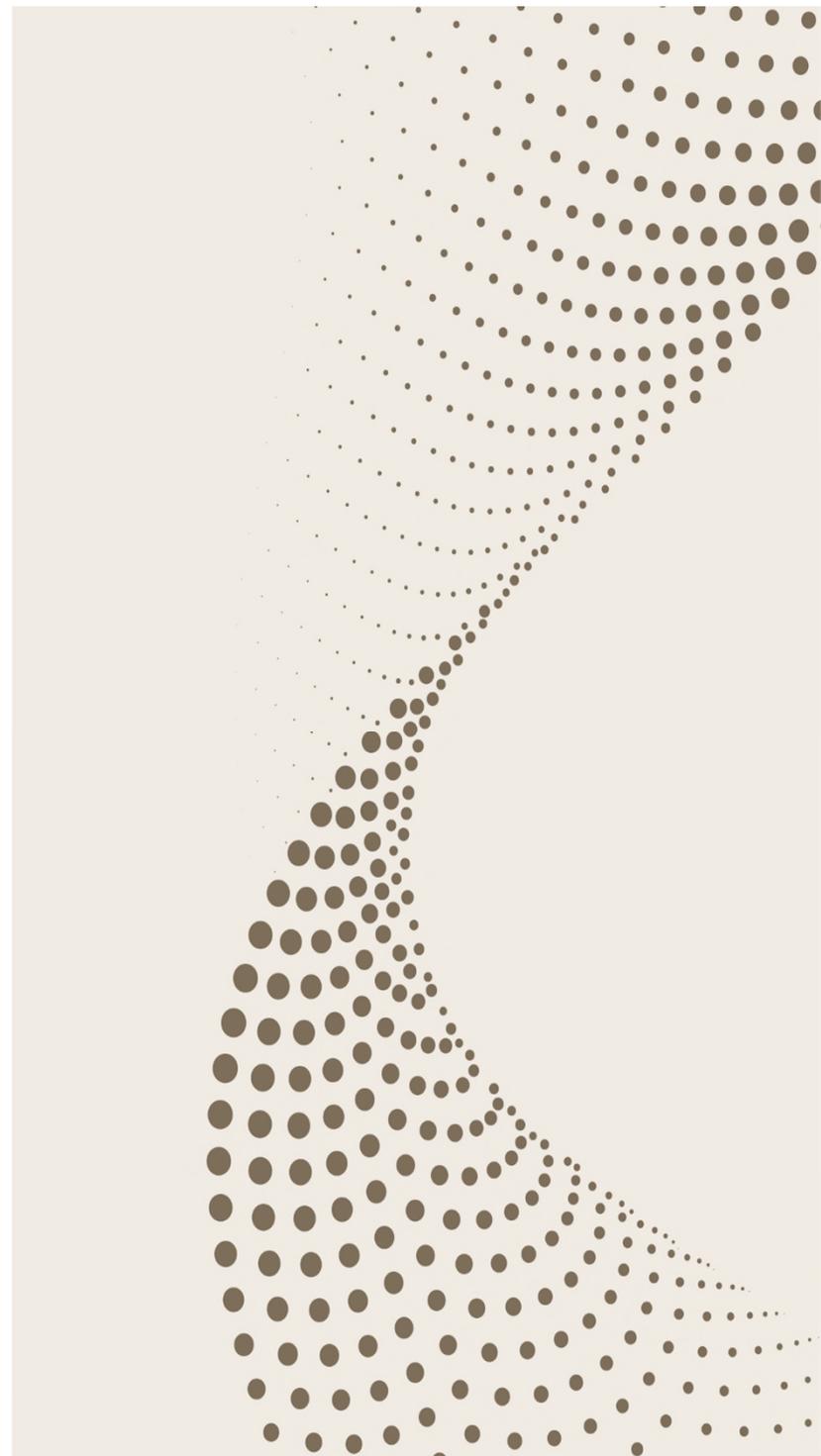
### <配布資料>

資料1 第1回生活保護システム等標準化検討会 事務局資料（本紙）

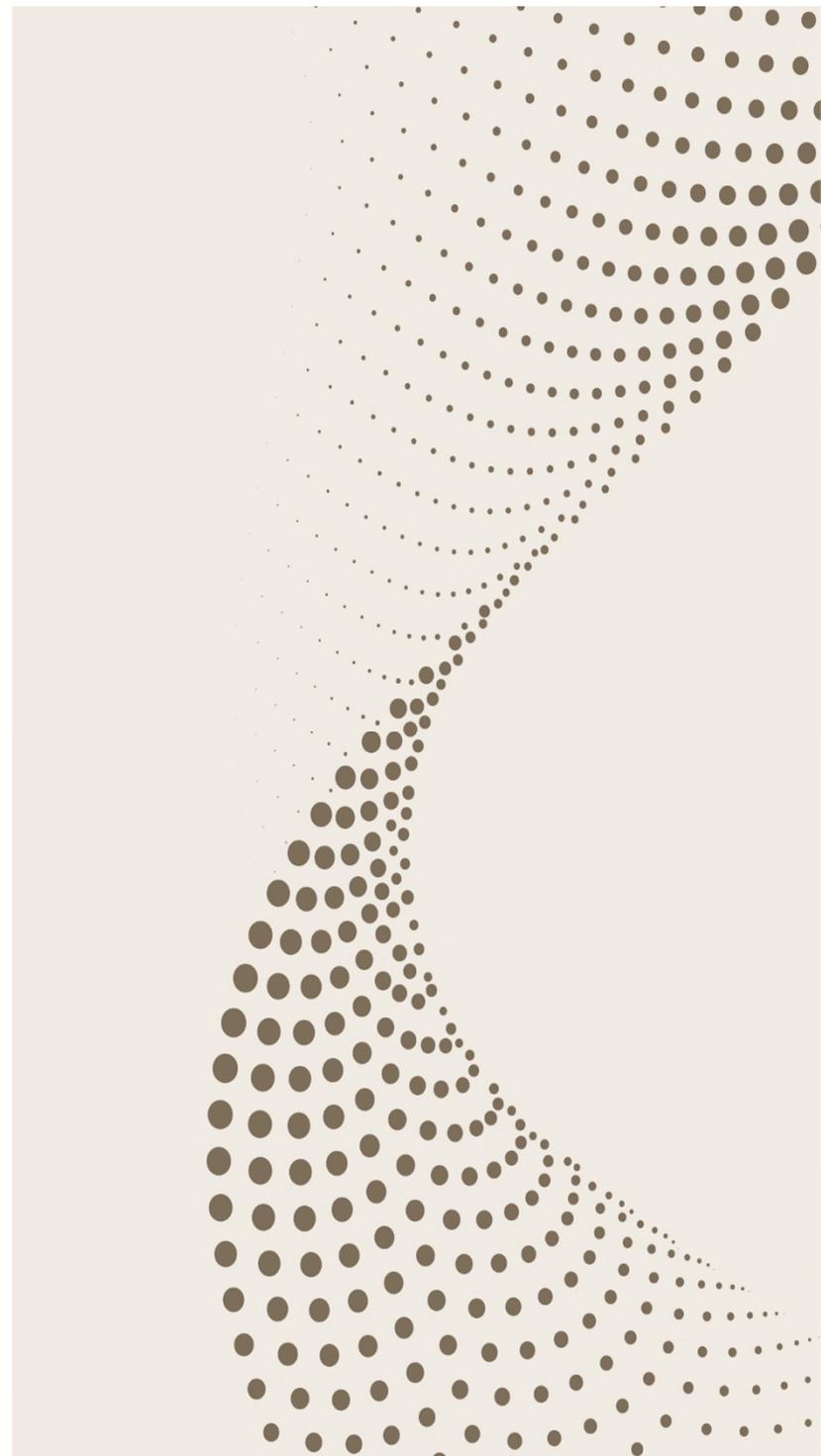
資料2 構成員名簿

## 1.出席者紹介

資料2：  
構成員名簿を用いて構成員を紹介



## 2. 令和5年度の検討の振り返り

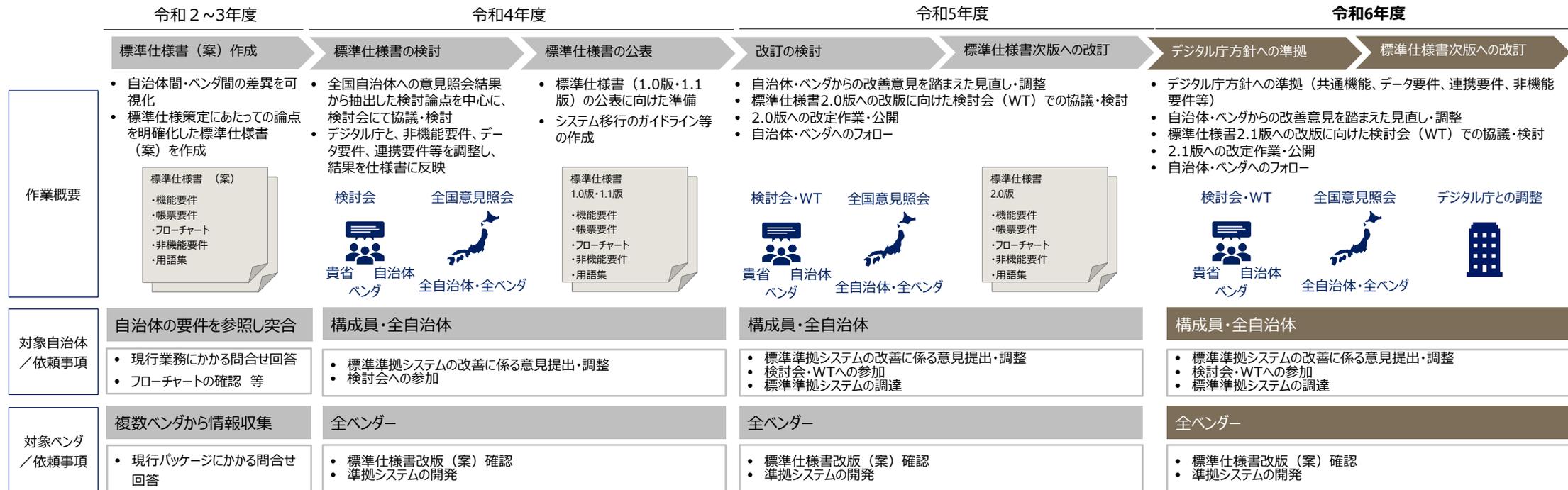


## 2. 令和5年度の検討の振り返り

### 2.1. 標準仕様書の改定の経過

- 令和5年度までは、現行の生活保護業務を標準仕様書にどのように反映するか議論を行い、**生活保護業務を行うために必要な仕様を網羅した標準仕様書を作成**しました。現在は、各自治体にて標準準拠システムの調達・構築が進んでいます。
- この状況を踏まえ、令和6年度は、法制度改正やデジタル庁の方針への準拠を継続して推進するとともに、**今後の自治体の生活保護業務を見据え、「新たな生活保護業務の標準」について、検討会で議論したい**と考えています。

#### 標準仕様書の改定の経過



## 2. 令和5年度の検討の振り返り

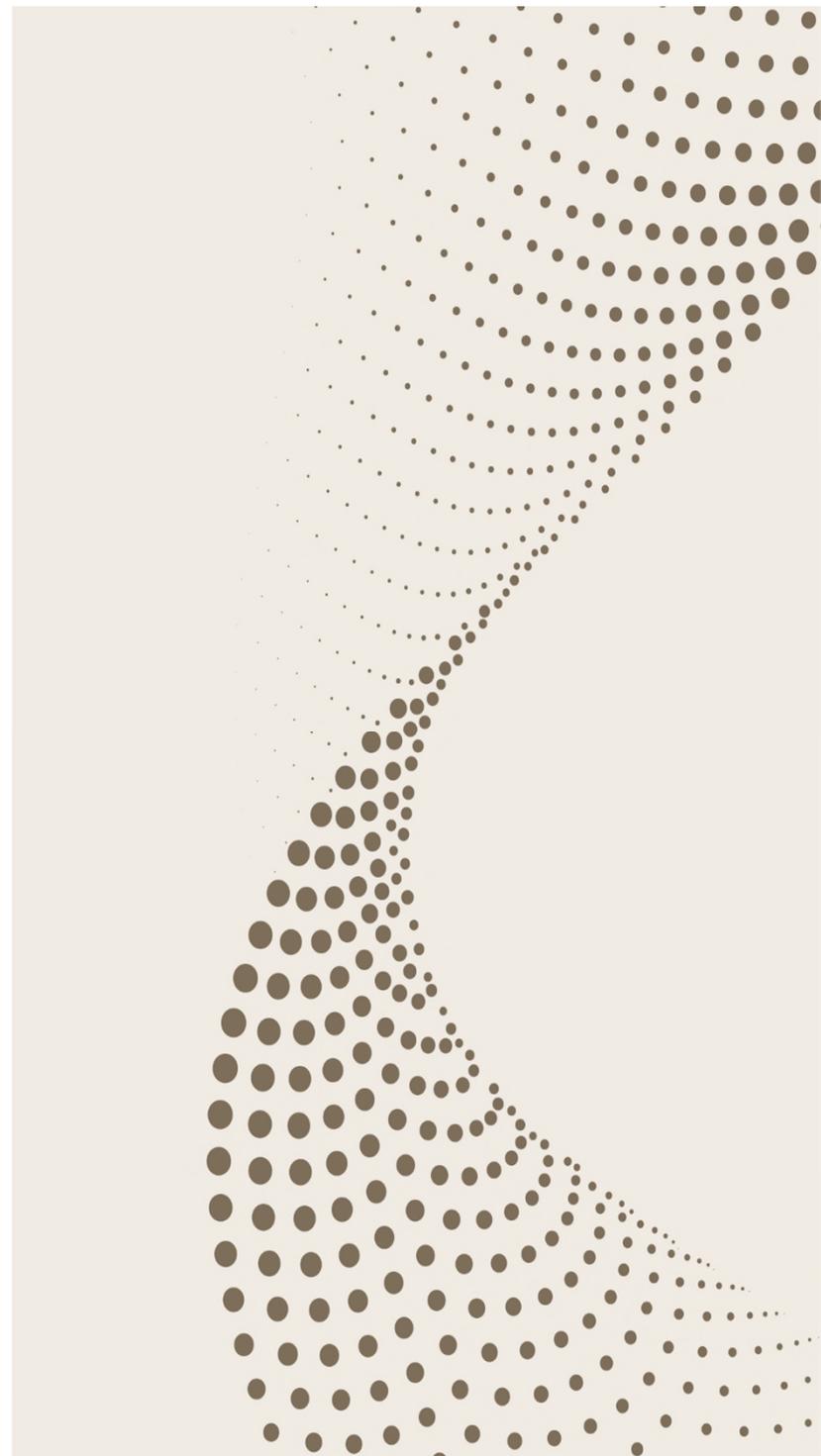
### 2.2. 令和5年度の検討概要

- 令和5年度は、令和4年度からの継続検討課題における各検討要素について詳細な議論を実施し、全ての検討要素について、一定の結論を導くことが出来ました。
- この中で、「内部帳票の電子化」については、自治体業務の標準検討の中で、令和6年度も引き続き検討します。

#### 令和5年度の作業概要

継続検討課題		検討要素	検討結果
No	種類		
1	内部帳票における管理項目	自治体運用の効率化に寄与する内部帳票の標準仕様整備	✓ 内部帳票において、「移管の際に用いる帳票および業務への出現頻度が高い帳票」に該当する帳票のうち、標準化の効果が高い10帳票について、帳票要件を定義した →今年度も引き続き検討(電子化した内部帳票を用いた運用フローを整理するため)
2	決裁に係る運用の検討	標準仕様書の利便性向上に向けた自治体規模別(種別)オプションの整理	✓ 標準仕様書1.1版への指摘事項について、自治体規模別(種別)オプションWTに関する仕様書の記載の妥当性を検証し、現行の記載で対応可能なことを確認した
3	EUCで対応可能な帳票の範囲	システム化による業務効率化と業務徹底が期待できる監査機能の追加	✓ 被監査自治体における監査資料作成の業務負荷が高いことを確認したため、監査資料を作成するにあたって必要な項目の出力等の機能要件を定義した
4	自治体規模別オプションの整理	生活保護業務に必要な納付書のレイアウト定義の要否	✓ 他の標準業務の標準仕様書の記載を踏まえて、税務システムの標準仕様書における帳票レイアウトに準拠することとし、機能要件を定義した
5	監査機能の追加検討	口座振込等における全国銀行協会以外のフォーマットの要否	✓ 全国銀行協会フォーマット以外の独自フォーマットで口座振込等を行う機能要件は不要という意見に対して、全国銀行協会フォーマット以外の独自フォーマットを使用していることを確認したため、機能要件は継続して仕様書に記載することとした
6	納付書のレイアウト調整		
7	全国銀行協会フォーマット以外での口座振替依頼		

### 3.令和6年度検討会実施概要の説明



### 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

#### 3.1. 今年度の検討内容

協議事項

- 今年度は大きく3つのテーマで生活保護業務の標準化検討を進めます。
- 法制度改正やデジタル庁動向などの国動向への対応、デジタル庁の標準化PMO等に集まっている各自治体からの質問を踏まえた標準仕様書改訂対応については、事務局にて調整し、WTにて協議する想定です。これらに加え、改めて生活保護業務を見直したうえでの新たな標準の検討についても有用であると考えています。
- 下図に示す今年度の検討内容について、構成員の皆様よりの意見を踏まえ、決定します。

今年度の検討内容

検討テーマ	検討内容	検討の背景	検討内容詳細	検討方法	
国動向への対応	制度改正への対応	法制度の改正内容を踏まえて、標準仕様書を改定することが必須であるため。	法制度改正を踏まえた標準仕様書の改定内容、適合基準日等	事務局で調整し、ポイントについてWTにて協議	
	データ要件・連携要件の精緻化	事業者協議会で、ベンダからデジタル庁に対して、機能要件とデータ要件・連携要件の不整合性があると意見があり、デジタル庁から協同対応の要望があったため。	データ要件・連携要件の基本データリストと機能要件の管理項目の一致等		
自治体支援 <small>構成員の皆様の標準仕様書活用時の問題点等を確認</small>	自治体対応支援	他の業務では、標準化移行時のFit & GapにおけるGap解消に対する質疑や指摘があるため、生活保護業務についても対応方法の検討が求められる想定である。	Fit & Gap時に生じたGap解消に関する疑問や指摘への対応方法		
	機能要件における「要件の考え方」の記載内容の充実化	標準化移行期限が間近に迫っているため、システム導入にむけて、自治体とベンダ間の機能要件に関する認識を、より共通化することが求められる想定である。	自治体とベンダの認識共通化に向けた、機能要件「要件の考え方」の記載		
未来の業務のあり方	新たな生活保護業務の標準	今後は、新たな生活保護業務の標準について業務効率化の観点から議論を行い、標準仕様書を改版することが望ましい想定である。	現在の生活保護業務の実態と業務効率化に向けた問題点と課題、将来像		WTにて協議
	内部帳票の電子化	職員の決裁用帳票や内部閲覧用の帳票である内部帳票の電子化は、現行の自治体の運用を大きく変えるものであり、電子決裁等の実現も踏まえて、検討会で議論を行うことが必要のため	内部帳票の電子化の実現に向けた電子決裁機能等		

### 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

## 3.2. 標準仕様書2.0版公開後の法制度改正

- 令和5年度末に標準仕様書2.0版を公開後、令和6年度にて2回の改正を実施／予定しています。
- これらの改正については、事務局にて標準仕様書への反映案を作成し、検討会で承認をいただいた後、全国意見照会を経て標準仕様として確定します。
- また、令和7年4月1日施行の改正もあり、これらの取り扱いについても、今年度整理を進める予定です。

#### 生活保護制度に係る令和6年度法制度改正（予定を含む）

改正内容	施行期日
進学・就職準備給付金	公布日（令和6年4月24日） ※令和6年1月1日遡及適用
子どもの進路選択支援事業（アウトリーチ事業）	令和6年10月1日
就労自立給付金のインセンティブ強化	令和6年10月1日

※上記以外に令和7年4月1日施行の改正もあり、当該改正についての反映時期は要検討

#### データ要件・連携要件の精緻化に係る対応（デジタル庁）

- ✓ デジタル庁にて整備されているデータ要件・連携要件について、左記制度改正の内容を踏まえて更新を実施
- ✓ その他、標準化全体の動向による修正について、適宜実施

The image shows a complex table with multiple columns and rows, detailing technical specifications for interoperability and data requirements. The table is organized into sections, with a prominent 'データ要件' (Data Requirements) section highlighted. The content includes various codes, names of requirements, and their corresponding details.

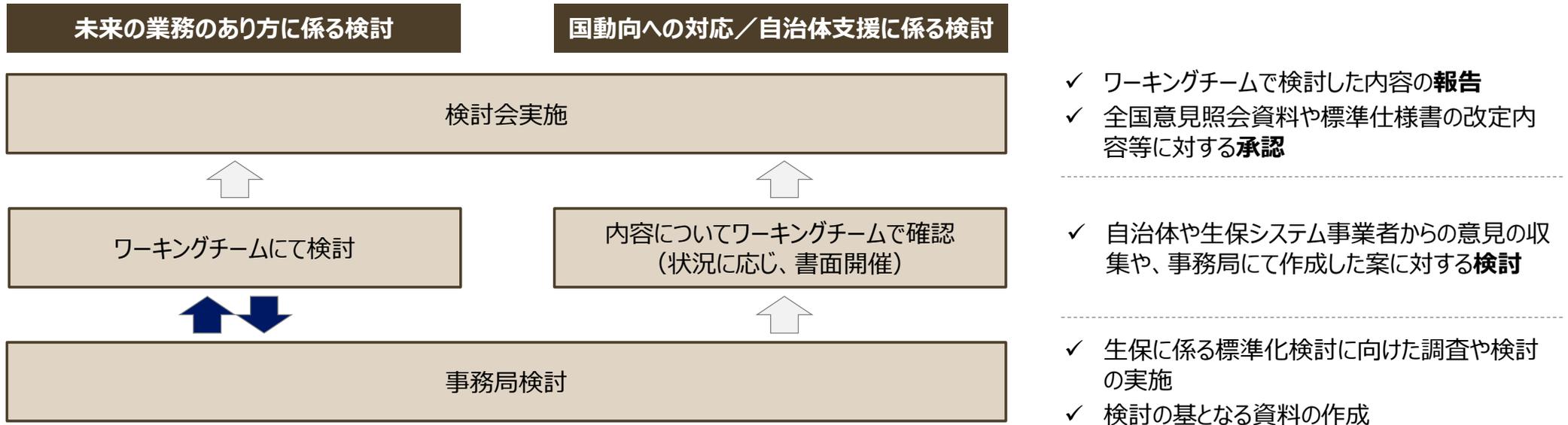
## 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

## 3.3. 今年度の検討の進め方

- 令和6年度は、前述のとおり、検討内容から、**事務局にて推進するテーマと、構成員の皆様からの意見にて検討を深めるテーマに分かれています**。構成員の皆様からの意見収集については、昨年度実施した検討会とワーキングチーム（WT）の形式を基本として進めます。
- 事務局で検討した部分について構成員の皆様を確認をさせていただきたい点についてもワーキングチームの中で議題を提示する予定です。ただし、ワーキングチームの開催時期と異なってしまう場合は、会議を書面開催として実施することを予定しています。

## 検討テーマ別意見収集方法（案）

- ✓ 「未来の業務のあり方」の検討については、構成員の皆様からの意見を収集して深い議論を実施（詳細は後述）
- ✓ 法制度改正や自治体支援については、事務局にて対応案（仕様書改定案の作成を含む）を作成し意見を収集することで、構成員の皆様の負荷低減を図る



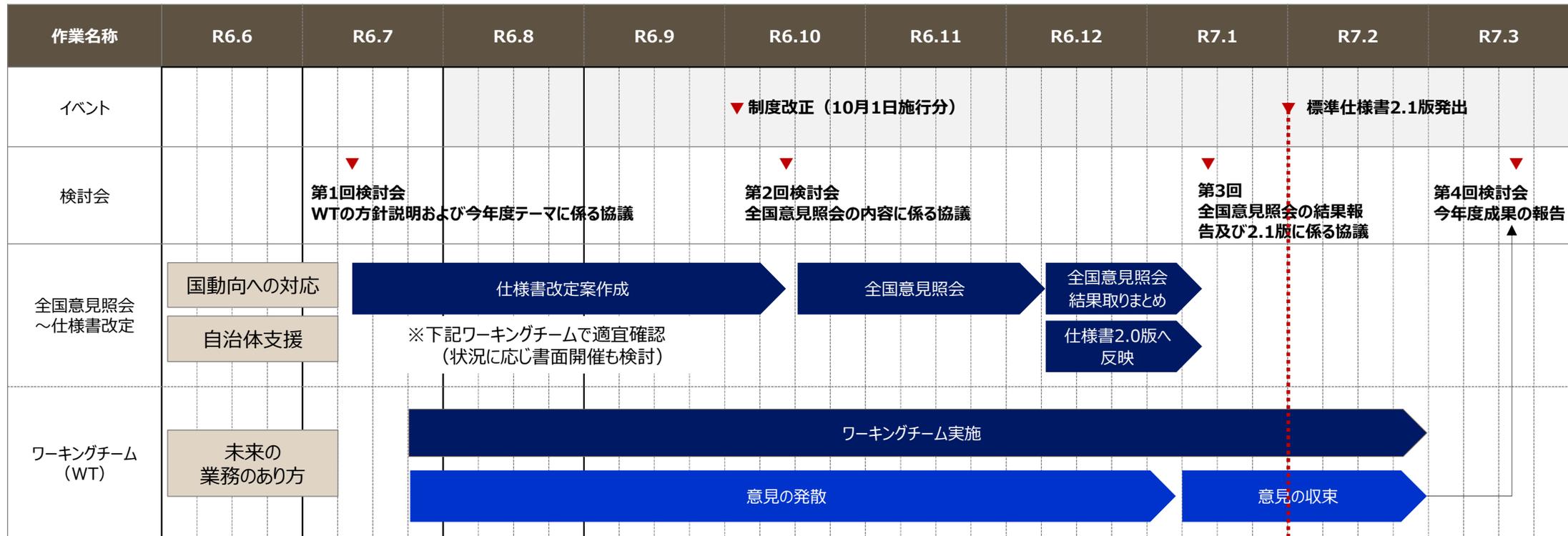
### 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

#### 3.4. 令和6年度の想定スケジュール

- 今年度の標準仕様書改定については、令和7年1月末の公表を目指すことを予定しております。
- 反映対象としては、前述の「**国動向への対応**」「**自治体支援**」にて必要となった内容を更新します。改定にあたりましては、これまでと同様に、10~11月頃の全国意見照会を経て実施する流れになります。

協議事項

検討会・WT・全国意見照会の実施スケジュール



### 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

## 3.5. WT（ワーキングチーム）における具体的な検討内容（案）（1/5）－ 検討ステップ

- 被保護者が抱えている課題は多様化、複雑化しており、ケースワーカーの業務量が増える一方で、地方自治体の職員数は減少傾向にあり、標準数を踏まえた人員配置ができていない自治体もあると承知しています。こうした状況のもと、生活保護業務を効果的・効率的に実施するにあたっては、業務の抜本的な見直しが必要であると理解しています。
- 前項の検討内容の「新たな生活保護業務の標準」は現在の生活保護業務の実態を確認し、運用における課題等を洗い出し、課題を解消、運用を見直すことで業務効率化を図ります。また、「内部帳票の電子化」も同様に、現状における課題、運用の理想像について議論を行います。なお、2つの検討テーマは包含関係にあるため、同時並行で進める想定です。
- 本検討にあたっては、ステップ①では、Tobe像（業務を抜本的に見直した理想の運用像）を構築し、ステップ②では、ToBe像を実現するために、障壁となる課題等に対してのアプローチを協議、対応施策を検討します。ステップ③では、対応施策を要件に落とし込み、標準仕様書を発出します。

### 検討ステップ

#### ステップ①（課題の整理及び将来像の取りまとめ）

- ✓ 現行業務の中での課題について整理
- ✓ 新たな標準の生活保護業務、理想の運用像を可視化



成果物

#### ステップ②（ToBe像実現に向けた課題と対策の検討）

- ✓ 理想の運用像に対する課題点を整理
- ✓ 特に、制約事項となる要素を整理し、可視化した資料

種別	大分類	小分類	課題概要	検討方針	検討結果	標準仕様書への反映	備考
			将来像実現に向けた課題整理				
			課題への対応方針の整理				
						仕様書への反映方法	

#### ステップ③（標準仕様書の改版）

- ✓ 取りまとめた将来像の実現に向け、具体的なシステム要件を取りまとめ



### 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

## 3.5. WT（ワーキングチーム）における具体的な検討内容（案）（2/5）－ 現行業務の課題の観点

- 生活保護業務の将来像を構築するにあたり、現行業務の課題について、「ムリ」、「ムダ」、「ムラ」が無いかの観点で、自治体委員の皆様を中心にご意見を頂き、議論する想定です。

#### 課題の観点

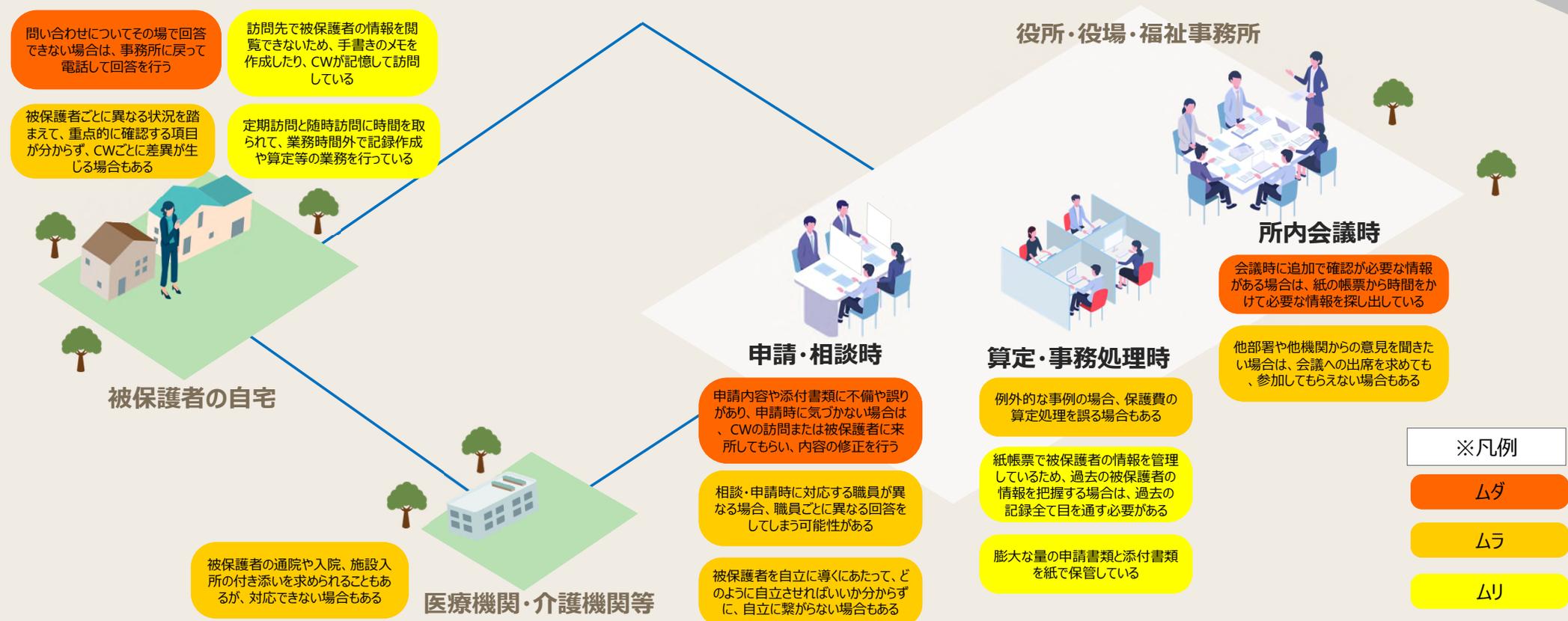
	業務の「ムリ」の定義	業務の「ムダ」の定義	業務の「ムラ」の定義
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 当該作業の影響で、他の作業の実施時間が取れない（残業して対応している）</li> <li>✓ 優先したい作業があるものの、実施できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 必要な業務を行うにあたって、必要以上に丁寧な方法や手順を用いている</li> <li>✓ 他の業務を行うための時間を確保できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 時間の不足や人員不足等により、業務の実施有無、実施内容に差異が生じている</li> <li>✓ ケースワーカーの支援内容に差が生じている場合もある</li> </ul>
具体例	<p>業務における「ムリ」の具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 膨大な量の算定業務、訪問業務を行うにあたって、時間外で対応する、もしくは他の業務の時間を削って対応している状態</li> </ul>	<p>業務における「ムダ」の具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 算定業務において、金額の誤り防止のため、複数職員での目視確認を実施している</li> <li>• 訪問時に書いたメモをもとに、ケース記録に同じ内容を転記している</li> </ul>	<p>業務における「ムラ」の具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 算定業務に追われている場合などは、就労支援業務等について、対応しきれない場合もある</li> </ul>

### 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

## 3.5. WT（ワーキングチーム）における具体的な検討内容（案）（3/5）－作業イメージ（課題の可視化）

- 前項でお示した課題の観点に基づき、事務局にて現行業務の課題概観のたたき台を作成した上で、議論する想定です。

### 現行業務における課題の概観（想定）



サンプル

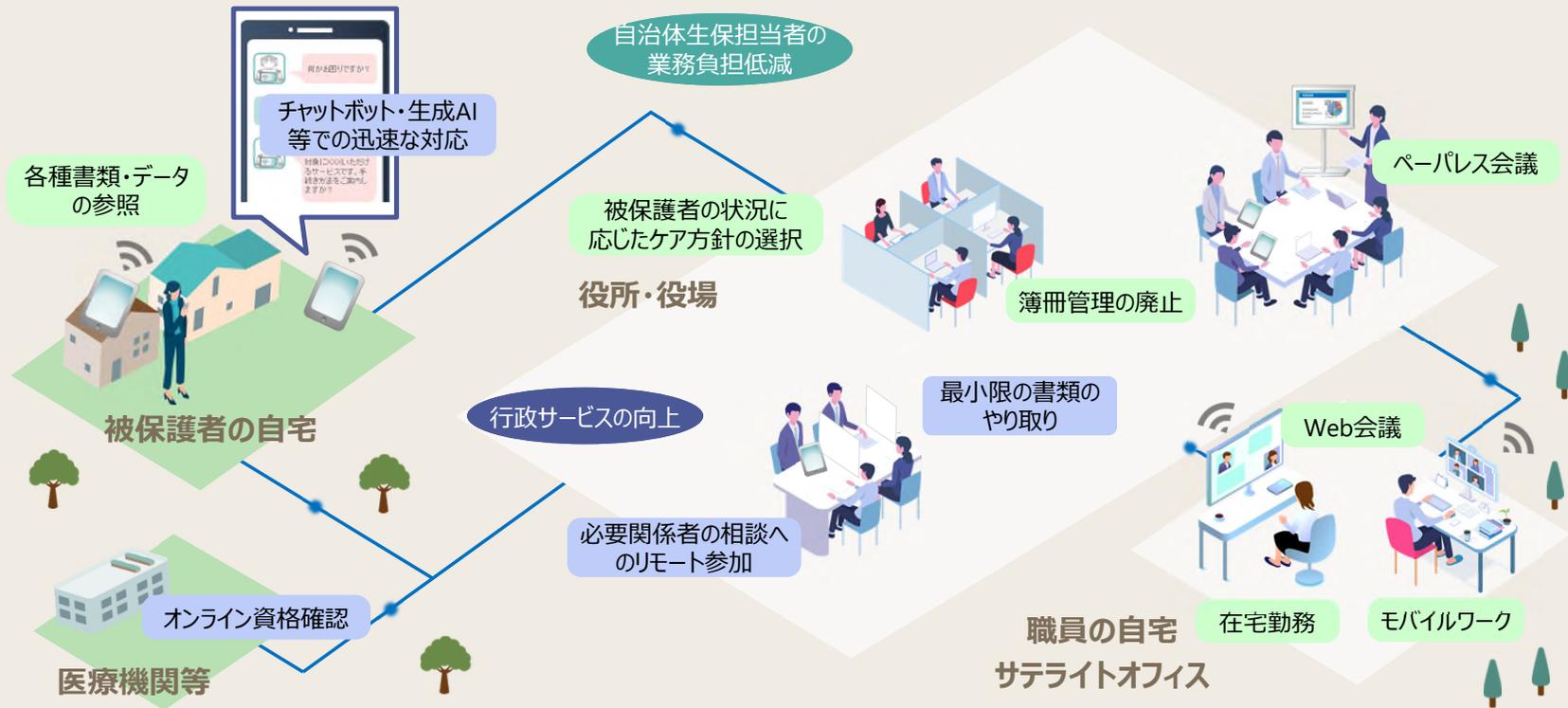
3. 令和6年度検討会実施概要の説明

3.5. WT（ワーキングチーム）における具体的な検討内容（案）（4/5）－作業イメージ（将来像）

- WTにおける議論を踏まえて、課題を解決した後の将来像を作成する想定です。

被保護者の状況に合わせた柔軟な支援の提供と職員の働きやすさを両立できるデジタル環境の実現

- ✓ 多様な被保護者の状況に対応したサービスを提供（支援の必要性に応じた濃淡をつけたサービス提供）
- ✓ 事務の効率化・デジタル化による職員負荷軽減、本来業務への注力、柔軟な働き方を実現



サンプル

### 3. 令和6年度検討会実施概要の説明

## 3.5. WT（ワーキングチーム）における具体的な検討内容（案）（5/5）－ 想定会議回数及び成果物

協議事項

- WTの実施に向けては、それぞれの回にて議論するテーマを決めたうえで、議論を実施します。
- 「何を課題として定めるか」について、事務局より考え方を提示しますので、その考え方を踏まえ、自治体・事業者の立場にて意見を収集します。
- 収集した意見については、一覧にまとめるとともに、今年度の成果として、イメージ図に取りまとめを実施します。

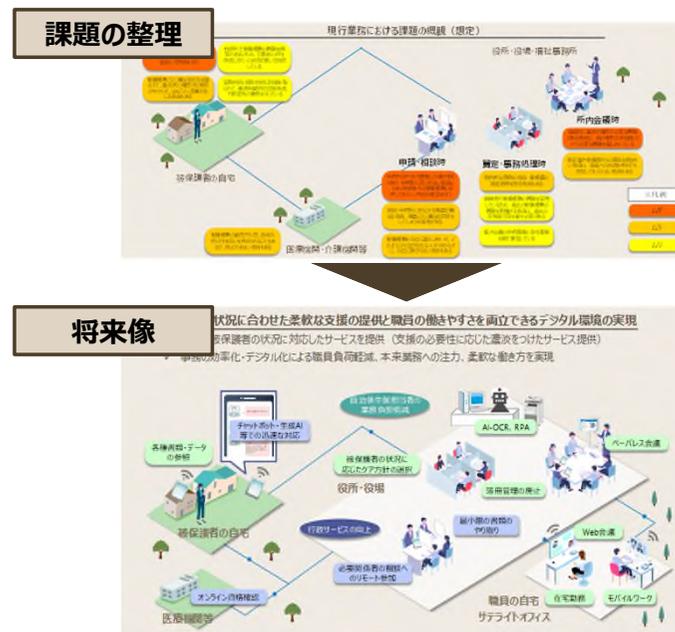
### 想定しているWT回数とテーマ

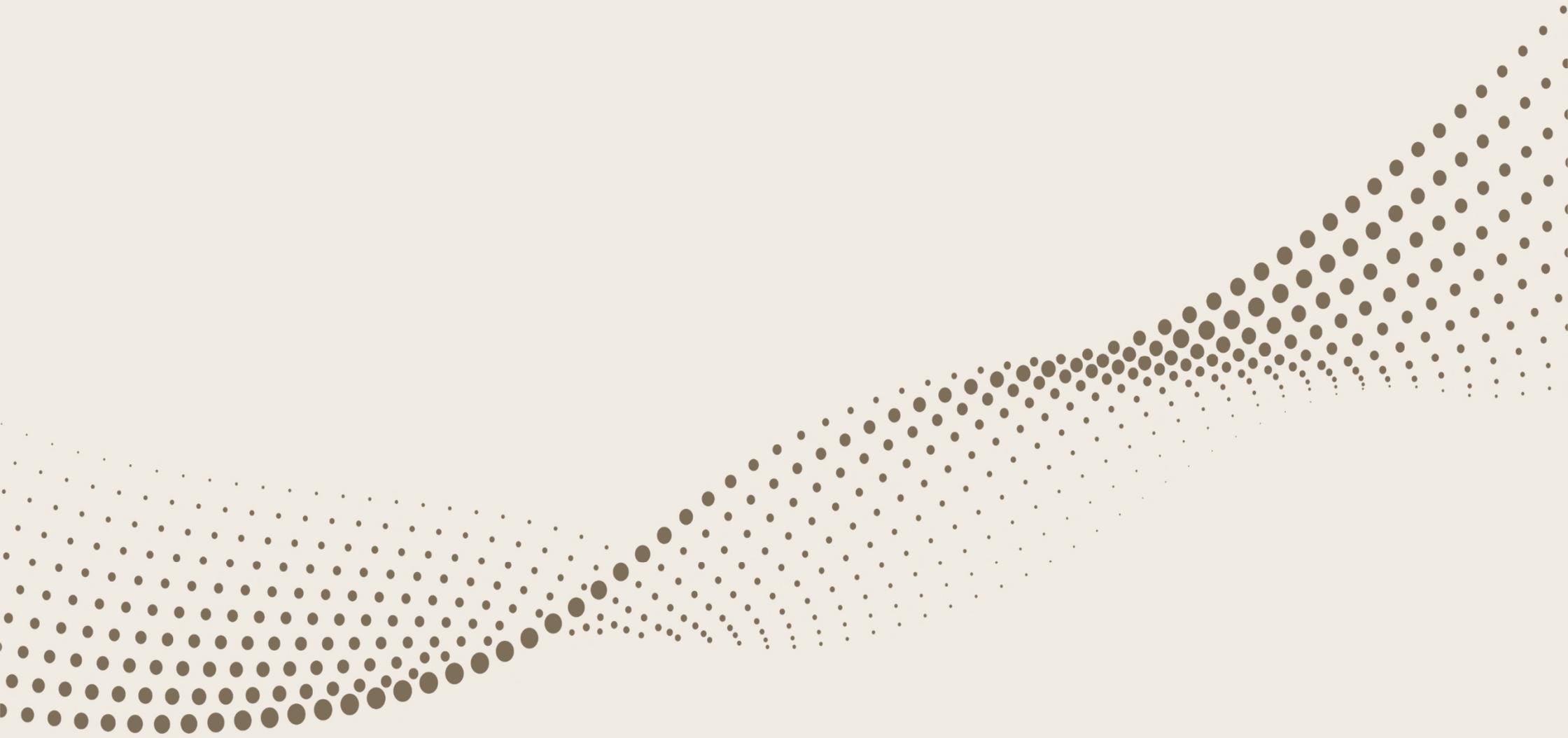
- ✓ 各回、意見を収集後、次回のWT開催前に意見を取りまとめた資料を配布し内容を確認
- ✓ 意見については、各自治体・各事業者の視点にて考えている点や課題として思われている点について挙げていただく

回	テーマ	概要
第1回 (8月)	ケースワーク① (訪問関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 訪問予定の整理～訪問～訪問後の業務</li> <li>✓ 訪問前における準備等を含む</li> </ul>
第2回 (9月)	ケースワーク② (自立支援等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 就労・自立支援など、被保護者の自立に向けた各種支援業務</li> </ul>
第3回 (10月)	生保申請・決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 面談を含む相談対応や各種調査等、保護決定までの一連の業務</li> </ul>
第4回 (11月)	医療扶助・介護扶助	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 医療扶助・介護扶助に係る業務</li> </ul>
第5回 (12月)	経理・返還金・債権管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 支給や納付に係る業務</li> <li>✓ 返還金・債権管理、適正化に向けた調査等</li> </ul>

### 課題と将来像の整理イメージ

- ✓ 生保業務の全体像を整理した図に対し、俯瞰した課題をプロットする
- ✓ その課題を解決した後の将来像について合わせて定義する





アビーム、ABeam及びそのロゴは、アビームコンサルティング株式会社の日本その他の国における登録商標です。  
本文に記載されている会社名及び製品名は各社の商号、商標又は登録商標です。©2024 ABeam Consulting Ltd.



Build Beyond As One.®